

# お元気ですか

発行所 (福)横浜市社会福祉協議会  
障害者支援センター  
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地  
横浜市健康福祉総合センター9階  
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550  
🌐https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/  
編集発行人 内嶋 順一

2024年3月 203号



横浜市 障害者支援センター

検索

「重心調査結果」  
「感謝の集い報告」  
はHPに掲載しています



## 港南地域活動ホームひの

令和  
6年度  
35周年

### ～ 福祉教育から始まった地域の子どもたちとのつながり ～

港南区にある機能強化型障害者地域活動ホーム「港南地域活動ホームひの」(NPO法人るんと)では、小学校での福祉教育をきっかけに地域の子どもたちとのつながりが広がっています。

#### きっかけは横浜市立日野小学校での福祉教育

令和4年12月に港南区社会福祉協議会からの依頼で、横浜市立日野小学校の全校生徒を対象に「心のバリアフリー」をテーマに授業を行いました。

子どもたちに  
何を伝えたいのかを  
利用者・職員間で  
案を出し合いながら、  
授業の流れを考えました。

港南地域活動ホームひの  
オリジナルキャラクター



名前はこれから  
考えてもらう予定だよ



元イラストレーターの職員がオリジナルのキャラクターを作り、  
子どもたち一人一人が考えられるような身近な内容でスライドを作りました!



ワークショップでは、片麻痺の利用者さんが片手で13秒でちらしを  
三つ折りにしている動画を見て、子どもたちも挑戦!

でも、みんな苦戦してきれいに折れません。利用者さんのことを  
「ヒーローだ!」という声も挙がりました。

活動ホームひのと日野小学校のその後の展開は、次ページへ!

## 今度は日野小学校の子どもたちが活動ホームひのを訪問

令和5年2月、4年生のクラスから「利用者さんの普段の生活が見たい」「車いすで学校に来られなかった利用者さんにも会いたい」と希望があり、子どもたちが活動ホームひのへ。

「作業見学」「送迎車体験」「利用者さんとお話」などを行いました。

## その後、子どもたちがポッチャ体験を企画

令和5年3月、子どもたちからお礼がしたいと、ポッチャ体験と大縄跳び披露に、再び活動ホームひのを訪問。

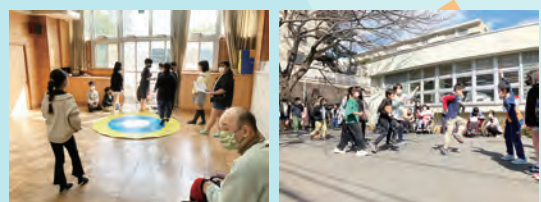
最初はどうか接したらよいか分からなかった子どもたちも、何度か顔を合わせることでお話をしたり、会話が難しい利用者さんとも手を握ったり、「今日からお友達だよ!」と自然にかかわっていました。

## その後のつながり

その後、道で会ったら挨拶をしてくれたり、放課後にホームに立ち寄ってくれる子どもたちも。「お友達に会いに来た!」「今日も元気?」と声をかけます。

その後、活動ホームひので実施するお祭りには、沢山の地域の子供たちが来てくれています!

から揚げ! アニメ! 僕もアニメ好き!  
何が好きなの? 私もから揚げ大好き!  
自分たちとおなじだ!



「所長になって一番やりたかったことは、地域とのつながりを作ることです。福祉教育の依頼が来たことをきっかけに職員全体で考え、チームを組んで取り組みました。子どもたちの『お友達だよ』という言葉や利用者さんの名前を覚えて自然と接している姿に、一同感動しました。」

活動ホームひの  
藤川 真美 所長

「児童からは、『障害のある人はどこか遠い存在のように思っていたけど、自分たちと同じようにアニメが好きと聞いて身近に感じた。』『車いすの方が自動販売機のボタンに手が届かないと言っていたけど、僕たちにもできる手助けがありそう!』という感想が多くありました。授業全体が温かい雰囲気、教員からも大変勉強になったという声が挙がっていました。」

横浜市立日野小学校  
吉本 友絵 先生

「活動ホームのお祭りで地域の子供たちがこんなにも来てくれたのは初めてです。障害があることは特別なことではない、特別な人ではないということが子どもたちにも伝わったと思います。また障害のある人=助けてあげる人でなく、誰にも得意なことや苦手なことがあることを肌で感じてくれたと思います。」

NPO法人ると  
早坂 由美子 理事長

～ 横浜市社会福祉協議会でも、障害者施設や地元の小学生をつなぐ、交流プログラムを実施しています ～

### 「小学生向け障害当事者との交流プログラム」

令和5年度は10か所の活動ホーム・障害福祉事業所から申込があり、夏休み・冬休み期間に8か所のプログラムを実施し、地元の小学生たちとポッチャ交流会やお菓子作り、アクセサリーづくりなどを行いました(令和6年1月現在)。協力いただく障害者施設・団体には協力金が交付されます。詳細は横浜市社会福祉協議会ボランティアセンターまで!

## 望遠鏡

地域の方々への障害者理解のための啓発活動は、我々当事者が自ら地域に出ていき発信していかななくてはと思っています。発信することで1人でも10人でも我々の声に耳を傾けてくださる方がいれば、障害者理解は進んでいくと考えています。特に子どもたちへの福祉教育は大切だと思っています。障がいがあるなしではなく、どんな人もみな同じ、できない事があったら助け合う、困った人がいたら何かお手伝いすることがあるか声をかけるなどの心のバリアフリーを伝え、障害のある方と交流することで、障がいに対するの偏見や差別はなくなっていきます。福祉教育を受けた子どもたちが将来どんな大人に育っていくのか楽しみでもあります。横浜市障害者地域活動ホーム連絡会(NPO法人ると理事長) 早坂 由美子





## ボランティアさん紹介

いずみ会館(泉区) 戸塚 和子さん

いずみ会館に入るとまず、玄関に置かれているカプセルトイに目を惹かれます。1回200円で、中には織地で作られたフクロウや手芸のぬいぐるみが入っています。これらをメンバーと一緒に作っているのが、今回ご紹介するボランティアの戸塚さん。

戸塚さんといずみ会館の接点は昭和56年にまで遡ります。戸塚さんはいずみ会館の立ち上げに携わったメンバーの一人。いずみ会館設立後は自主製品作りのボランティアを続けてきましたが、3年前にコロナの影響で活動休止を余儀なくされました。しかし、その間もいずみ会館のことを気にかけて、「ボランティア活動ができなくても、いずみ会館は毎日やっているのだから何かできることがしたい。」という思いから自宅で縫製作業を始めました。そうして100個のぬいぐるみを作り上げ、いずみ会館に寄贈しました。しばらくしてコロナも落ち着き、いずみ会館から声がかかり、活動を再開することに。現在は週に1回

いずみ会館を訪れ、縫製作業をしています。そして、戸塚さんと一緒に作業をしているのがメンバーの新木さん。新木さんは、戸塚さんが作ったぬいぐるみに綿を詰めたり、さをり織の糸をほぐす作業をしています。そんな二人の付き合いも10年以上に及びます。新木さんは戸塚さんを「ママ」と呼び、「ママに会えるのがうれしい。ママにはいろいろ相談できる」と話してくれました。

戸塚さんと新木さんは、いずみ会館を通して縁を紡ぎ、糸を紡ぎ、この世に二つとない素敵な作品を作り上げています。



新木さん(左)と戸塚さん(右)



## 「のげちかマルシェ」開催に思うこと

今年も桜木町駅野毛ちかみちにて10月の3日間、作業所等で作られた製品販売イベントの「のげちかマルシェ」が大盛況のもと開催されました。「のげちかマルシェ」発足から将来の展望について、市精連の大友会長と市作連の谷口会長にお話をお聞きしました。

### 「イベント立ち上げの経緯をお聞かせください」

**大友会長** 2020年4月「新型コロナウイルス緊急事態宣言」の発出によりイベント開催はもちろん、作業所等の製品販売の機会も失われ、製品制作にかかわった障害者の工賃も減額せざるを得ませんでした。そんな現状を打開するため、多くの行政機関、関連団体等に働きかけ、粘り強く話し合いを重ねた結果、ワゴンセール形式の販売の場をもつことができました。

### 「立上げてみてお気づきになったことはありますか」

**谷口会長** 経費と事務負担、団体調整、当日の運営もさることながら、駐車場からの物品搬入や参加する職員 の体制確保など様々な課題がありました。販売に参加した事業所はある程度の売り上げがありますが、利用者と一緒に販売できる時間帯の設定が悩みどころです。

### 「今後の展望についてお聞かせください」

**大友会長** 市民の芸術愛好家の作品展や障害者のアート展等も「のげちか」で開催していきたいですね。

**谷口会長** もっと多くの事業所が参加し、にぎやかになっていけばよいと思います。また、訪れてくださる方々に障害のある人のことを理解していただき、応援してもらえる場にしたいと思います。



# モニター活動事業を再開しました!

障害者支援センターで平成4年から実施し、コロナ禍で延期していたモニター活動を、今年度4年ぶりに再開しました。\*

今年は、日中活動作業所10カ所、グループホーム17カ所に訪問しました。

\*昨年度は、オンラインによる新たな形でグループホーム3カ所にモニター訪問を実施しました。



## モニター活動とは??

第三者であるモニター委員が、障害のある方の日中活動場所やグループホームを訪問し、その運営や援助内容に人権尊重の姿勢が導入されているかを見守る活動。モニター委員は、当事者・家族・弁護士・社会福祉士・精神保健福祉士など様々な立場の方で構成されています。

## モニターの流れ

### 訪問前

- ①訪問先と日程調整
- ②訪問先から事前資料の記入  
(日中作業所は通所者からの聴き取りも含む)

### 訪問当日

- ③モニター委員と同行スタッフが訪問

### 訪問後

- ④モニター委員からの報告書を訪問先へ送付
- ⑤報告内容に基づき、支援センターによるフォロー  
(グループホームは所属団体によるフォロー)

メンバーさんと一緒に箱折を体験させていただき、感心することがたくさんありました。ひとりひとりの個性や取り組み状況をよく把握して、どのような作業を行ってもらうか、それをどう伝えるか等、試行錯誤して今日があると感じました。

## モニター委員からの意見

メンバーさんは、休憩時間は思い思いに好きなことをして過ごし、全体的に個々の存在が尊重されている印象です。

仕事上のことを相談できる人が職場にいない職員がいることが気になります。



メンバーさんへの事前聞き取りで、ちゃんづけで呼ばれているという回答がありました。個別の事情があり、丁寧に寄り添う支援をされていることはわかりましたが、どこかで切り替えが必要です。お互いに大人として認め合うことができたら良いと思います。

## モニター同行スタッフより

今回、モニター活動に初めて同行しました。そこで感じたのは、モニター活動は障害のある方の人権を尊重した、支援をより良いものとする活動であるということでした。また、これまでの関わる機会がなかった職員の方にお話を聞けたり、支援の様子を見ることができたり、今まで以上に事業所の魅力や状況について知ることができました。今後このモニター活動をきっかけに、各事業所の皆さんで障害のある方への支援の質の向上に取り組んでいただければ幸いです。



## ハートメイド通信

2年ぶりにハートメイドカタログを改訂しました。

表紙や内容を一部改訂し、新商品もたくさん掲載しています。

豊富な種類の菓子部門では、「おべんとうばこ」のメロンパンクッキー。

見た目も味もメロンパンそっくりで、一口サイズで食べやすく、メロンの香りとやさしい甘さのクッキーです。

縫製品部門からは、「でっかいそら」のおにぎり入れ。おにぎりが2個入る布製のケース。これからの行楽シーズン、ハイキングやピクニックなどお出かけの際に便利です。普段のお弁当時にも使えます。

カタログに掲載してある商品は、各作業所がいろいろなアイデアを出し、心を込めて作り上げたものです。ぜひカタログをご覧ください。



お問い合わせ 障害者支援センター  
ハートメイド担当  
☎ 045-681-1131



※カタログ請求無料。TELにてご連絡ください。  
※HPオーダーフォームから注文できます。